

2014年度事業報告書

社会福祉法人岐阜アソシア

〒500-8815 岐阜市梅河町1-4

TEL. 058-263-1310

FAX. 058-266-6369

<http://www.gifu-associa.com>

2014年度岐阜アソシア事業報告書

社会福祉法人 岐阜アソシア

当法人が設置する「視覚障害者生活情報センターぎふ」が所期の目的を達成できるように、資金を確保して資金援助をおこなうとともに、岐阜県及び岐阜市の委託事業等を実施することにより、視覚障害者福祉の向上発展のために努めた。

1. 「視覚障害者生活情報センターぎふ」の経営

「視覚障害者生活情報センターぎふ」が、地域における視覚障害者福祉の総合センターとしての機能を発揮するように努め、事業をとおして「視覚障害者とともに生きる」社会作りを目指した。

2. 「障害者総合支援法」による同行援護・移動支援事業の経営

岐阜アソシア・視覚障害者居宅介護事業所を設置して視覚障害者・児を対象とした同行援護・移動支援事業を引き続きおこなった。

3. 運営資金確保のための活動

「視覚障害者生活情報センターぎふ」を支援する募金活動を引き続きおこなったほか、全国のキリスト教会及び教会が経営する学校・幼稚園・信徒等に対して協力依頼をおこなった。さらに、岐阜県内すべての小・中・高等学校及び幼稚園に「書き損じ葉書」の寄付を依頼するなどして、「視覚障害者生活情報センターぎふ」の運営資金の確保に努めた。

(1) 「感謝のしおり第26号」を作成し、協力者1,800余名に配布して引き続き協力を依頼した。

(2) 全国のキリスト教会・キリスト教系の学校・幼稚園並びに信徒等に対し事業への協力依頼文書を発送して資金確保に努めた。

(3) 募金箱を近郊の書店、医療機関、ホテル及び岐阜県眼鏡商業協同組合（県下の同組合加盟眼鏡店80店の店頭）に設置）の協力により、一般市民の協力を依頼した。

(4) 岐阜はもんの会の全面的な協力により、運営資金獲得のためのバザーを年2回実施し、金2,836,172円を上げこれを運営資金とした。なお、今回から視覚障害者の入場を優先し、一般バザーと同日の開催とした。また、例年どおり点字の値札をつけるなどして、多くの視覚障害者に買い物を楽しんでいただけるよう配慮した。計2回で約400名の入場者があった。

第1回：5月23日（金）、第2回：10月31日（金）

(5) 岐阜県内のすべての小学校・中学校・高等学校及び幼稚園に対して「書き損じ

葉書」の寄付を依頼した。(今後継続して実施する予定)

4. 設置施設への資金援助

- (1) 「視覚障害者生活情報センターぎふ」の事業に対し、その必要とする資金を繰り入れ、事業の発展に努めた。
- (2) 特別事業のリーディングサービス事業及び奉仕団育成事業の資金を確保し、事業の発展に努めた。

5. 岐阜県・岐阜市からの受託事業

- (1) 岐阜県の「岐阜県からのお知らせ」点字版・録音版、岐阜市の「広報ぎふ」点字版・録音版(「あいメール」)製作の委託を受けて、視覚障害者への広報活動に協力した。また「岐阜県からのお知らせ」・「広報ぎふ」のLサイズ点字版を希望者に配布した。
- (2) 岐阜県から委託を受けて視覚障害者福祉事業(点訳奉仕員養成、音訳奉仕員養成)、点字版・録音版「視覚障害者福祉の手引」、歩行訓練士指導員派遣事業、中途失明者緊急生活訓練事業等)を引き続き行い、視覚障害者福祉の向上のために協力した。

6. 関係機関、団体との連携

- (1) 岐阜県身体障害者福祉協会及び岐阜県視覚障害者福祉協会がおこなう視覚障害者福祉事業、岐阜県立岐阜盲学校及び同窓会、「視覚障害者の教育と福祉を進める会」の事業に協力し、視覚障害者福祉の向上に努めた。
- (2) 各地域社会福祉協議会等のおこなう視覚障害者福祉事業に協力した。
- (3) 日本盲人キリスト教伝道協議会、日本聖公会社会福祉連盟に引き続き加盟してその活動に協力した。

7. 防災運動会を9月27日(土)に岐阜県立岐阜盲学校・岐阜県視覚障害者福祉協会と共催で、岐阜県立岐阜盲学校でおこなった。(参加者200余名)

2014年度視覚障害者生活情報センターぎふ事業報告書

社会福祉法人 岐阜アソシア

事業概要

職員7名によって幅広い事業活動を展開した。尚、この事業は岐阜はもんの会の全面的な協力を得ておこなったものである。

情報提供部門では、引き続き全国の視覚障害者を対象に、点字図書・録音図書の貸し出し、点字図書・録音図書の製作、点字資料類の製作、岐阜県図書館との相互協力によるリーディングサービス事業、点訳及び音訳ボランティアの養成、拡大教科書製作、触図の製作、点字印刷・製本、館内閲覧業務、対面音訳サービス、パソコン操作相談サービス等の事業をおこなった。そのほか点字図書・雑誌類の購入や各種資料の収集によって蔵書の充実に努めるとともに、全国視覚障害者情報提供施設協会のネットワークシステムである「サピエ」の事業への積極的な参加、国立国会図書館がおこなう「点字図書・録音図書全国総合目録」の事業への継続参加によって視覚障害者への情報提供の充実を図った。また、視覚障害者用デジタル録音図書・雑誌の製作に引き続き取り組み、デジタル録音再生機器の取り扱いを指導して利用の促進を図った。さらに、弱視者への情報提供として個別のニーズに応じて拡大写本サービスを展開した。

生活支援部門では、身近な窓口として視覚障害者からのあらゆる相談に応じたほか、小学生とその親を対象とした「親子点字教室」の開催、視覚障害者の体験を広げる機会と外出サポート事業、日常生活用具の収集・展示、クラブ活動の推進などを継続実施して、視覚障害者の理解と点字の普及をおこなうなど、多様化する視覚障害者のニーズにきめ細かく対応するとともに、視覚障害者福祉の啓発に努めた。

日常生活技術指導部門では、歩行指導、パソコン指導及び中途視覚障害者に対する点字学習指導を引き続いておこなったほか、必要に応じて日常生活における基本的な技術指導をおこなった。

防災運動会を9月27日（土）に岐阜県・岐阜県立岐阜盲学校・岐阜県視覚障害者福祉協会と共催で、岐阜県立岐阜盲学校で開催した。（参加者200余名）

各事業の内容

(以下、施設名を「生活情報センター」と略す)

I 情報提供部門

1. 事業実績 (2015. 3. 31現在)

(1) 蔵書数

点字図書 8, 266タイトル (23, 808巻)

録音図書 5, 219タイトル (27, 596巻)

CD図書 3, 890タイトル

(うち、自館製作 点字図書2,703タイトル、録音図書4,963タイトル)

(2014年度増加分)

点字図書 206タイトル (653巻)

厚生省委託 54タイトル (166巻)

自館製作 134タイトル (422巻)

複製 4タイトル (20巻)

購入 7タイトル (20巻)

寄贈 7タイトル (25巻)

録音図書 212タイトル (421巻)

厚生省委託 22タイトル (22巻)

自館製作 176タイトル (385巻)

複製 0タイトル

購入 3タイトル (3巻)

寄贈 8タイトル (8巻)

その他 3タイトル (3巻)

テキストデイジー 8タイトル

(2014年度廃棄分)

点字図書 389タイトル (1, 171巻)

録音図書 0タイトル

(2) 貸し出し数

点 字 2, 569タイトル (5, 659巻)
うち、図書 1, 042タイトル (3, 759巻)
雑誌 1, 527タイトル (1, 900巻)
(点字雑誌取扱数 22種 23巻)
録 音 12, 350タイトル (43, 628巻)
うち、図書 10, 810タイトル (20, 124巻)
(テープ図書取扱数 1,860タイトル 11,122巻)
(DAISY図書取扱数 8,950タイトル 9,002巻)
雑誌 1, 540タイトル (23, 504巻)
(テープ雑誌取扱数 20種 28巻)
(DAISY雑誌取扱数 66種 66巻)

(3) サービス実績 (一部再掲)

製 作	点 訳	
	蔵 書	134タイトル (422巻)
	プライベートサービス	89件 (3, 796ページ)
	(うち、立体コピー	0ページ)
	音 訳	
蔵 書	176タイトル (DAISY 104タイトル・カセット 72タイトル)	
プライベートサービス	12タイトル (DAISY 12タイトル・カセット 0タイトル)	

製 作 以 外	点字データ提供	0件
	点字打出し	17件 (2, 846ページ)
	テープコピー	0件
	対面音訳サービス	延べ 34件68時間
	その他、代筆、墨字訳、触図、墨字入力、葉書印刷など	

(4) 利用者の状況

個人 4,948名
団体 6団体 300名

2. 点字図書の製作と貸し出し

- (1) 点字図書の最新の出版情報及び「サピエ」に登録される点字図書情報を常に把握し、利用者の要望に速やかに応えた。
- (2) 点訳ボランティアの協力によって、利用者の希望に応じた自館製作図書の増加に努めた。製作に当たっては、点訳図書を読者に速やかに提供できるよう、点訳→校正→判定→修正→点検→製本→装備の一連の作業すべてにボランティアの協力を得て、それぞれの作業のスピード化を図った。なお、製作した点訳図書は国立国会図書館総合目録に登録するとともに、パソコン点訳によるものは点字データを「サピエ」に登録して全国の共有財産とした。また、全国の点字図書館・公共図書館等との相互貸借を行って図書館サービスの充実に努めた。相互貸借の状況は次のとおり。

	他館製作図書借受数	自館製作図書貸出数
点字図書	499タイトル(2,058巻)	418タイトル(1,337巻)

- (3) パソコンを使った点字入力をさらに推進し、点訳の効率化を図って、利用者に対して点字情報の速やかな提供をおこなった。
- (4) 幅広い範囲から調査し、全国の視覚障害者情報提供施設との重複製作を回避するよう努めた。
- (5) 館報「長良川だより」（点字版460部・墨字版250部・メール版60通）を毎月継続発行し、利用者及び関係機関へのきめ細かい情報提供に努めた。「長良川だより」には、生活情報センターからのお知らせ、点字・録音新着図書案内、「サピエ」に新しく登録された主な資料の紹介などを掲載した。
- (6) 日本書籍出版協会発行の「これから出る本」から抜粋（毎月約80タイトル分）し、点字版を継続発行し、希望者27名に配布した。これによって、墨字図書情報を提供するとともに、利用者の希望図書を把握して自館製作の点訳原本を決定した。
- (7) 点字交流誌「心」を年4回発行して希望者179名に配布し、利用者間の意見・情報交換の場を提供した。

3. 録音図書の製作と貸し出し

- (1) 岐阜県図書館との相互協力によってリーディングサービス事業をおこなった。利用者の希望に応じて、県図書館が購入した新刊書を借り受けるほか、新たに原本を購入し、音訳ボランティアの協力によって録音図書として製作して、希望者に提供した。
- (2) 音訳ボランティアの協力によって読者の希望に応じた録音図書を製作した。

製作に当たって音訳図書を読者に速やかに提供できるよう、音訳→校正→判定→訂正→編集→プリント→装備の一連の作業すべてにボランティアの協力を得て、それぞれの作業のスピード化を図った。また製作した録音図書は国立国会図書館総合目録に登録するとともに、全国の視覚障害者情報提供施設（点字図書館）・公共図書館等との相互貸借を行って図書館サービスの充実に努めた。

- (3) 製作したDAISY図書は国立国会図書館総合目録に登録するとともに、「サピエ」に登録して全国の共有財産とした。また他館製作のDAISY図書情報及び「サピエ」に登録されるDAISY図書情報を常に把握し、利用者の要望に速やかに応えた。

相互貸借の状況は次のとおり。

	他館製作図書借受数	自館製作図書貸出数
録音図書	1,145タイトル(7,473巻)	670タイトル(3,436巻)
DAISY図書	6,171タイトル(6,218巻)	1,886タイトル(1,891巻)

- (4) 視覚障害者用デジタル録音図書の製作に取り組み、104タイトルのDAISY図書を製作した。また、DAISY編集講座を開催して、編集スタッフの増強に努めたほか、DAISY学習会（月1回）を開催してデジタル録音図書製作の知識・技術の向上を図った。
- (5) 館報「長良川だより」（DAISY版 103部・カセット版 55部）で、「新着録音図書」を毎月紹介し、利用者及び関係機関へのきめ細かい情報提供をおこなった。尚、内容については点字版・墨字版とほぼ同様である。
- (6) 日本書籍出版協会発行の「これから出る本」から抜粋（毎月約80タイトル分）し、墨字図書の近刊情報（DAISY版 12部・カセット版 9部）を提供した。これによって、墨字図書情報を提供するとともに、利用者の希望図書を把握して自館製作の音訳原本を決定した。
- (7) 月刊録音雑誌サウンドパーク「心」を毎月製作して、DAISY版164名、カセット版（C-90 1巻）324名の希望者（施設を含む）に貸し出した。
- (8) 「声の婦人公論」を毎月製作して、DAISY版 95名、カセット版（C-90 2巻）168名の希望者（施設を含む）へ貸し出した。また利用者の求めに応じて、日本点字図書館・日本盲人会連合・神奈川県ライトセンター等が製作するDAISY・テープ雑誌をプリントして貸し出した。
- (9) 前年度に引き続いて地域情報を提供するための録音雑誌「生活情報誌 月刊ぷらざ」を毎月製作して、DAISY版30名、カセット版（C-90 1巻）39名の希望者に貸し出した。
- (10) 前年度に引き続いて月刊誌「ジャフメイト」を毎月製作して、DAISY版103名の

希望者に貸し出した。

(11) 利用者の希望に応じて、延べ34件(68時間)の対面音訳サービスをおこなった。

4. 拡大写本製作

普通学級に在籍する弱視児童に対する国の拡大教科書支援を受けて1校1名の児童に2教科9分冊の拡大教科書を製作した。また、教科書出版社の依頼を受けて、6タイトル6冊の拡大教科書のデータを製作した。

5. 触図の製作

点訳図書原本にある様々な図・表等の作成に全面的に取り組んだ。

6. ボランティアの養成

- (1) 岐阜県の委託による点訳講習会（岐阜教室・可児教室）及び音訳講習会（岐阜教室・瑞穂教室）を2014年6月から2015年3月までの間に、それぞれ29回にわたって開催し、点訳17名、音訳20名、合計37名の修了者を得ることができた。またデジタル録音図書製作体制を強化するため、音訳ボランティア等を対象にDAISY編集講座（5名修了）、校正講座（7名修了）、テキストデイジー製作講習会（15名修了）を開催した。
- (2) 点訳・音訳ボランティアの資質の向上を図るため、前年度講習会修了者を対象として「点訳勉強会」（岐阜・池田の2教室）及び「音訳勉強会」（岐阜・羽島の2教室）をそれぞれ月1回開催してアフターケアに努めるとともに、毎月定期的に「点訳の集い」（岐阜・大垣・可児の3教室）、「点訳学習会」（岐阜・多治見の2教室）及び「音訳学習会」（岐阜・可児の2教室）を開催して、点訳・音訳技術の向上に努めた。
- (3) 点訳図書製作に関わる職員とボランティアで構成する「点訳図書製作プロジェクト」を毎月1回及び音訳図書製作に関わる職員とボランティアで構成する「録音図書製作プロジェクト」を年2回開催して、図書製作に関わる知識・技術を修得し、資質の向上に努めた。

7. 「サピエ」事業への参加

パソコンで製作した点字データ・音声データの登録をおこなうなど、視覚障害者情報ネットワークシステムとして機能している全視情協の「サピエ図書館」の事業に積極的に参加し、利用者サービスの向上を図った。

8. 委託製作、その他

- (1) 岐阜県広報紙「岐阜県からのお知らせ」点字版（月刊・26ページ・337部）及

び岐阜市広報紙「広報ぎふ」点字版（月2回・32ページ・120部）の製作・配布を委託事業としておこなった。なお、中途視覚障害者をはじめ高齢によって点字の触読が困難になった読者には、Lサイズ点字版「岐阜県からのおしらせ」（38部）・「広報ぎふ」（17部）を作製し配布した。

- (2) 岐阜県広報紙「岐阜県からのおしらせ」の録音版（月刊・C-46・1巻、カセット版174本・DAISY版35本）及び岐阜市広報紙の録音版「あいメール」（月2回・C-60・52巻）」の製作・配布を委託事業としておこなった。
- (3) 岐阜県の委託により「視覚障害者福祉の手引」点字版（140ページ・365部）及び音声版（C-90・カセット2巻・210部）の製作をおこなった。
- (4) 岐阜県後期高齢者医療広域連合の委託により「後期高齢者医療制度のしおり」点字版（28ページ・356部）及び音声版（カセット1巻 C-90 210部）の製作をおこなった。
- (5) 岐阜県視覚障害者福祉協会会報「虹の仲間」点字版（年1回）、岐阜県身体障害者福祉協会会報「希望」（年3回）、その他小冊子、視覚障害者団体の会議資料、及び会員向け通知文などの点字版製作をそれぞれの依頼によっておこなった。また岐阜県、及び各市町村選挙管理委員会の依頼による各種選挙の「候補者名簿」点字版の製作、点字の名刺の製作に協力した。他に岐阜県選挙管理委員会より依頼を受け、衆議院議員選挙公報等の点字版・音声版を製作した。

9. 関係機関・団体との連携

- (1) 全国視覚障害者情報提供施設協会及び社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会の1施設として各種事業に参加した。そのほか、日盲社協・情報サービス部会の各種プロジェクト委員会に協力した。
- (2) 中部ブロック点字図書館連絡協議会加盟の各点字図書館相互の連携を密にし、事業の効果を上げるために積極的に協力した。
- (3) 日本図書館協会に引き続き加盟し、図書館界の情報収集に努めたほか、岐阜県図書館協会に引き続き加盟し、県内の図書館との連携を図った。
- (4) 岐阜県図書館の音訳講座・研修会のほか、要請に基づいて各地域でのボランティア講座に講師を派遣した。
- (5) 隔月に名古屋盲人情報文化センター等を会場に開催する「東海点字研究会」に参加するとともに、その運営に積極的に協力した。
- (6) 盲学校、岐阜ロービジョンケアネット、JRPS等と情報交換を行い連携を図った。
- (7) 岐阜市主催のオンリーワンわたしたちの芸術祭で、司会を務めた。

Ⅱ 生活支援部門

1. 生活相談

中途視覚障害者をはじめ、視覚障害者からのさまざまな相談に応じ、関係機関と連携を図りながらその解決に取り組んだ。

2. 「かがり火」の実施

独身視覚障害男女の出会いの場と、結婚について研修する「かがり火」を2014年度は、1日の開催ではなく、じっくりと出会いの場が持てるよう1泊での開催とするための準備期間として休止した。

3. 施設機能強化事業の実施

施設機能強化事業として岐阜市の補助により、視覚障害者における火災・地震等の災害時に備え、避難準備や移動を支援するネットワークづくりの構築と視覚障害者の防災教育及び災害発生時の安全かつ迅速な避難誘導體制を充実させた。また施設の総合的な防災対策の充実化を図るため、避難講習会・避難訓練を実施した。

- (1) 講習会・避難訓練：地域ボランティア等への防災支援協力体制の整備及び講習会として9月27日(土)に「防災運動会」を岐阜県立岐阜盲学校を会場に開催した(参加者200余名)。
- (2) 防災教育・避難訓練：職員等の防災教育、訓練の実施及び避難具を整備した。
- (3) 各種クラブ活動の推進：生活情報センターを拠点として、視覚障害者と晴眼者が共通の趣味や目的で集まるクラブ活動の場を提供し、両者の交流を促進した。すでに結成されている、「お茶クラブ」「料理クラブ」「卓球クラブ」「あみものクラブ」「ダンスクラブ」「コーラスクラブ」への支援をした。
- (4) 「親子点字教室」の実施：小学生(高学年)とその親を対象とした「親子点字教室」を7月29日(火)に開催し、14名の親子の参加を得ることができた。

4. ワークショップ&タッチショップ

- (1) 3B 体操：運動不足になりがちな視覚障害者にとって、3B 体操は年齢性別に関係なく誰にでも無理なく、心身ともに健康な日常生活を送れるよう、気軽に楽しめる有益な体操である。月に1ないしは2回教室を開き、視覚障害者の健康増進を図ることができた。
実施回数 15回(延べ人数約150名)
- (2) 2014 さよなら餅つき会：2014年度は本館外壁修繕工事と日程が重なり、会場となる駐車場に足場が組まれたためやむなく中止とした。

5. センター交流会の実施

利用者とボランティア・職員との交流を目的とした「センター交流会」を計画し実施した。

日 時：2015年3月27日(金)

会 場：生活情報センター

内 容：岐阜アソシア・リニューアルライブ

参加者：懇談会 視覚障害者30名（付き添い1名） 職員・ボランティア22名

ライブ 視覚障害者44名（付き添い・ガイドヘルパー14名）

職員・ボランティア22名

6. 「視覚障害者外出サポート事業」の実施

視覚障害者の外出サポートを引き続き実施し、視覚障害者の外出を直接支援したほか、インターネットを利用した外出サポートの全国ネットワークである「全国視覚障害者外出支援連絡会」(JBOS)に引き続き加入して、他県の外出サポート事業実施団体との連携を図った。

事業の実施状況は次のとおり。

実施件数 16件（延べ 78名）

(このほか、生活情報センター近くのバス停、スーパーマーケットへの往復などにも多数のサポートをおこなった。)

7. 日常生活用具の収集・展示

視覚障害者が日常生活を営む上で便利な用具類を引き続き収集・展示して視覚障害者が気軽に試用できるよう配慮した。また視覚障害者の希望に応じて購入斡旋をおこなった。

8. 各種クラブ活動の推進

当センターを拠点として、視覚障害者と晴眼者が共通の趣味や目的で集まるクラブ活動を推進し、両者の交流を促進した。センターとしては、担当者を配置した上で、①広報（視覚障害者・晴眼者双方に対して）、②会場・機材の提供、③資料（点字・墨字）の製作の3点について支援をおこなった。

今年度の状況は次のとおり（ダンスクラブは週1回、編みものクラブは月2回、その他はいずれも月1回）。

お茶クラブ : 1997年9月発足、9名（視覚障害者 7名、晴眼者 2名）

料理クラブ : 1997年12月発足、16名（視覚障害者 11名、晴眼者 5名）

卓球クラブ : 1999年2月発足、15名（視覚障害者 11名、晴眼者 4名）

編みものクラブ : 2006年4月発足、15名（視覚障害者 9名、晴眼者 6名）

ダンスクラブ :2000年4月発足、2名(視覚障害者 1名、晴眼者 1名)

コーラスクラブ :2008年4月発足、13名(視覚障害者 10名、晴眼者 3名)

9. 視覚障害者福祉協会等の行事や活動への協力

- (1) 県視覚障害者福祉協会が岐阜県の委託を受けて実施する視覚障害女性家庭生活訓練事業(5月～12月)に対し、「岐阜はもんの会」とともに全面的に協力した。
- (2) 岐阜県視覚障害者福祉協会の主催で11月9日(日)に実施した「点字フォーラム2014」(平成26年度岐阜県点字競技大会)に対し、資料の作成及び当日の進行・成績審査などを担当して協力した。(競技参加者17名)

10. 視覚障害者福祉の啓発活動

小・中・高校生等を対象に点字の普及を図るとともに、視覚障害者に関する知識と理解を広めるため、求めに応じて「ミニ点字教室」等の形で啓発活動をおこなったほか、誘導法を広め、「視覚障害者とともに生きる」環境作りに努めた。

11. 多様な学習機会の提供

利用者・地域ボランティアの自主的・自発的な学習活動を援助するため、研究会、講演会、アソシアシネラマボイス(副音声映画会)等を主催し、学校、関係団体等と共催しておこなった。多様な学習機会の提供に努めるとともに学習活動の場の提供、設備や資料の提供をおこなった。

12. 日常生活用具の収集・展示

視覚障害者が日常生活を営む上で便利な用具類を引き続き収集・展示して視覚障害者が直接試用できるようにするほか、外部の業者を招いて広く情報を提供した。

Ⅲ 日常生活技術指導部門

1. 歩行指導の実施

歩行指導員により個別に歩行指導をおこなったほか、必要に応じて歩行指導以外の生活技術指導をおこなった。また県内各地の社会福祉協議会等からの要請により、地域のガイドヘルパー及び一般市民に対する誘導法の普及に協力し、視覚障害者が安全かつ容易に外出できる環境作りに努めた。

歩行指導の実施状況は次のとおり。

実施人数 32人（延べ87回）

ほかにガイド講習会等への協力多数

2. パソコン指導の実施

視覚障害者がパソコンを介して情報収集を図り、また情報伝達を円滑におこなうために、個々のニーズに応じて個別のパソコン指導を引き続き実施した。

パソコン指導の実施状況は次のとおり。

実施人数 20人（延べ95回）

3. 中途視覚障害者に対する点字学習指導

点字学習を希望する中途視覚障害者に対して、ボランティアの協力を得て個別に学習指導をおこなった。

点字学習指導の実施状況は次のとおり。

実施人数 7人（延べ49回）

修了人数 3人

4. 相談

生活相談全般にわたっての相談を受け、適切な処理をおこなった。

生活相談人数 114人（延べ234件）

日常生活相談(用具) 81人（延べ103件）

5. 防災講習

防災運動会をはじめ、依頼を受けて防災講習をおこなった。

3回（延べ280名）

2014年度「障害者総合支援法」による同行援護・移動支援事業報告書

社会福祉法人 岐阜アソシア

「障害者総合支援法」の同行援護・移動支援事業を行い、視覚障害者・児の社会参加を促進した。

- (1) 同行援護従業者の研修を実施し、初任者等の養成をおこなった。
 - (2) スキルアップ研修に参加し、資質の向上を図った。
 - (3) 職員と共に事務を簡素化し、事業の充実を図った。
 - (4) ボランティアの協力によっておこなう「外出サポート事業」とのすみ分けを明確にした。
- ア. 同行援護・移動支援の利用を優先し、制度が利用できない場合に「外出サポート」で対応した。
- イ. 同行援護・移動支援利用のコーディネートは、職員と嘱託職員がおこなった。

契約市町村数 29 市町村

利用契約者数 147 人

利用延べ回数 6,794 回 (延べ時間 29,205時間)